

科目名	化学	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input type="checkbox"/> 専門教育科目 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 栄養士必修
英文表記	Chemistry	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年
ふりがな	そとしろ ひさや	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	外 城 寿 哉	修得単位	2 単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕化学の基本（原子・分子の構成、周期表、化学反応式等）を理解すること。 〔テーマ〕化学の基礎が分かれば面白くなるはずである。		
準備学習	テキスト「楽しみながら分かるようになる化学」をよく読んでおくこと。例題は必ず自分で解けるようにすること。		
授業概要	化学は物質の学問である。原子の構造や物質の構成は偶然そうなったわけではなく、きちんとした理由がある。本講義では化学の基礎を中心に構成されているが、ときどき地球環境の話も取り入れる。		
授業計画			
第1回	原子の構造。キーワード：原子、陽子、中性子、電子		
第2回	電子の配置。キーワード：価電子、電子殻、電子式		
第3回	元素の周期表。キーワード：アルカリ金属元素、アルカリ土類金属元素、ハロゲン元素		
第4回	イオンの生成①。キーワード：イオン化エネルギー、電子親和力		
第5回	イオンの生成②。キーワード：イオン式、単原子イオン、多原子イオン		
第6回	化学結合① イオン結合。キーワード：組成式、電離、水和		
第7回	化学結合② 金属結合。キーワード：自由電子、結晶構造		
第8回	化学結合③ 共有結合。キーワード：共有電子対、電子式、構造式、分子式		
第9回	原子量。キーワード：原子量、分子量、式量		
第10回	物質量（モル）。キーワード：アボガドロ定数、化学式量、標準状態		
第11回	溶液の濃度。キーワード：モル濃度、重量パーセント濃度		
第12回	化学反応式。キーワード：反応物、生成物、質量保存の法則		
第13回	酸と塩基。キーワード：水素イオン、オキソニウムイオン、水酸化物イオン		
第14回	中和反応。キーワード：水素イオン濃度、水のイオン積、塩		
第15回	酸化と還元 キーワード：酸化数、酸化剤、還元剤		
第16回	試験		
テキスト	「楽しみながら分かるようになる化学」吉野公昭著		
参考文献	適宜、プリント等を配布		
評価の方法	出席点 30点。 試験の成績 70点。 合計100点で評価する。		
学生へのメッセージ	化学が苦手な人にも分かるように説明します。		

科目名	生物学	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input type="checkbox"/> 専門教育科目 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 栄養士必修
英文表記	Biology	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年
ふりがな	ひろかわただお	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	廣川忠男	修得単位	2 単位
授業の到達目標及びテーマ	[到達目標] 生と死の概念について理解し、生命尊重について自分なりの考えをまとめる。生物の構造と機能の特徴について理解し、説明できるようになる。 [テーマ] 死生観および生物の構造と機能の理解		
準備学習	授業の前にテキストの関連ページを通読し、よく理解できない事項を整理して臨むこと。生理学・解剖学・生化学などの関連性を意識して学習すること。常に復習を心がけること。		
授業概要	本講は、高校で「生物」を履修していない学生、また履修はしているが苦手とする学生を対象として、高校「生物」の内容を簡潔に整理して学習することにより、専門科目の「解剖・生理学」や「生化学」の理解を深めていくための一助となることを目指して開講するものである。人体の構造と機能の理解に役立つように、高校生向けのテキストを用いてできる限り平易に解説していきたいと考えている。		
<b>授業計画</b>			
第1回	生命とは (生命/生物/無生物/生きているということ)		
第2回	古典的な生命観 (霊魂論/精気論)		
第3回	ヒトの誕生と生命倫理 (生命権/胎児・胚の生命権/生命権の尊重)		
第4回	ヒトの死と生命倫理 (死の判定/心臓死/脳死)		
第5回	地球型生命体の特徴 (生命体の定義/宇宙生命探査/地球型生命体)		
第6回	生物体の構成 (構成成分/構成元素/細胞/組織/器官系)		
第7回	細胞の構造と働き (細胞膜/細胞内微小器官)		
第8回	動物の組織と器官系 (上皮組織/結合組織/筋組織/神経組織/器官系)		
第9回	遺伝子の構造と機能 (DNAの構造と複製/タンパク質合成)		
第10回	物質代謝と酵素(1) (酵素の特徴/酵素の特異性/補酵素)		
第11回	物質代謝と酵素(2) (代謝調節/酵素誘導/オペロン説)		
第12回	エネルギー代謝(呼吸)とそのしくみ(1) (嫌氣的呼吸/解糖系/発酵と腐敗)		
第13回	エネルギー代謝(呼吸)とそのしくみ(2) (好氣的呼吸/TCA回路/電子伝達系)		
第14回	生体内の情報伝達系(1) (中枢神経系/末梢神経系/自律神経系/運動神経)		
第15回	生体内の情報伝達系(2) (内分泌系/環境ホルモン)		
第16回	期末試験		
テキスト	鈴木孝仁監修：視覚でとらえるフォトサイエンス『生物図録』，数研出版		
参考文献	講義の中で関連する参考図書を紹介していく。		
評価の方法	期末試験および出席状況により評価する。講義回数のうち、3分の1以上欠席した者は、期末試験の受験資格を失うので注意のこと。		
学生へのメッセージ	毎回の出席カードで質問を受け付けるので、疑問点・理解できない点は遠慮なく質問すること。授業には積極的な姿勢で臨んでほしい。		

科目名	栄養学入門	科目分類	<input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input type="checkbox"/> 専門教育科目 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 栄養士必修
英文表記	ABC's of Nutrition	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年
ふりがな	いとう ちなつ	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	伊藤 千夏	修得単位	2 単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕栄養学の基礎を習得し、それを専門教育科目に発展させることが出来るようにする。		
準備学習	配布されたプリントに目を通してから授業に臨むこと。		
授業概要	これから専門的に学んでいく栄養素の礎となる基礎的な事柄について学ぶ。		
<b>授業計画</b>			
第1回 栄養素、食品群、料理について			
第2回 炭水化物の栄養①			
第3回 炭水化物の栄養②			
第4回 脂質の栄養①			
第5回 脂質の栄養②			
第6回 たんぱく質の栄養①			
第7回 たんぱく質の栄養②			
第8回 たんぱく質の栄養③			
第9回 ミネラル（無機質）の栄養①			
第10回 ミネラル（無機質）の栄養②			
第11回 ミネラル（無機質）の栄養③			
第12回 ビタミンの栄養①			
第13回 ビタミンの栄養②			
第14回 ビタミンの栄養③			
第15回 水、エネルギーについて			
第16回 試験			
テキスト	女子栄養大学出版部「食品成分表」		
参考文献			
評価の方法	出席状況、受講態度、定期試験などを総合的に評価する		
学生へのメッセージ	授業回数の2/3以上の出席がない場合単位を認めない。		